

## ⑱ Mental Ergonomics As Basis For New-Generation Computer Systems

M.H.van Emden(Univ. of Victoria,カナダ)

### 発表要旨

現在のコンピュータは、OSのユーザインタフェースが複雑なため使いづらい側面がある。自動車における使いやすさは、人工知能によるものではなく、作業学(ergonomics)の進歩によるものである。同様に、パーソナルコンピュータも、精神的作業学、すなわち精神的に使いやすい道具を作る科学における進歩によってより使いやすく成りうる。このような機械は、人間の思考を支援(Computer-Aided Thought略称CAT)するものである。これはWalkmanのようにユーザが持ち運べる小道具であり、私はCATMANと呼んでいる。

コンピュータの性能の向上のため、かつてコンピュータの開発は、ハードウェアとソフトウェアの開発に主眼がおかれていた。今や、コンピュータは、十分速いプロセッサや巨大なメモリ、快適なディスプレイ、高機能ネットワークを持つに至った。私は、コンピュータの性能の開発から思考支援のための開発に人々の関心が移ることを心待ちにしている。

### 質疑応答

質問：CATMANなどを、ニュートンのりんごにたとえて説明していましたが、さらにコメントがありますか？

回答：特にありませんが、コンピュータを使いやすくするためには、AIの研究よりもMental Ergonomicsについての研究をすべきであると思います。ニュートンのりんごに対応するものは、MacintoshやDynabookなどがあります。

質問：あなたの考えは、第五世代コンピュータプロジェクトを批判するものではないのですか？

回答：ええそうです。今までコンピュータの研究は速いプロセッサや巨大なメモリの開発が主眼でしたが、第五世代コンピュータプロジェクトでは、アプリケーションの統合に向いていると私が思うロジックプログラミングを扱った点が良いと思います。

質問：あなたのアイデアをどのように実現しますか？

回答：難しいですね。ユーザがワープロなどを使用するのに、数千ページに及ぶマニュアルを使用して学習しなければなりません。今後、使いやすくするために自動化の研究が必要でしょう。